

LD、ADHD、高機能自閉症等の 特性の理解

これらの状態は、重なって現れることが
多いといわれています。

LD(学習障害)

一般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものです。

その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されますが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではありません。

- ・個別に言われると聞き取れるが集団場面では難しい。
- ・文中の語句や行を抜かしたり、繰り返し読んだりする。
- ・限られた量の作文や決まったパターンの文章しか書かない。
- ・学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい。
- ・目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい。
- ・早合点や飛躍した考えをする。 など

ワンポイント 児童生徒の特性に合った手立てを工夫しよう。

- 得意なことを生かして
- 説明や提示の工夫を
- スモールステップで
- 教材・教具の工夫を
- 励みになる評価を



ADHD(注意欠陥／多動性障害)

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものです。

また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されています。

不注意

- ・課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい。
- ・学習などの課題や活動を順序立てて行うことが難しい。
- ・気が散りやすい。

多動性

- ・授業中や座っているべき時に席を離れてしまう。
- ・じっとしていない又は何かに駆り立てられるように活動する。

衝動性

- ・順番を待つのが難しい。
- ・質問が終わらないうちに
出し抜けて応えてしまう。 など



ワンポイント 一貫性のある対応をしよう。

- よいところやできていることを積極的にほめる工夫を
- 具体的な目標を設定し、モデルとなる行動の提示を

高機能自閉症

3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいいます。

また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されています。

※アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特性のうち、ことばの発達の遅れを伴わないものです。

人への反応やかかわりの乏しさ、社会的関係形成の困難さ

- ・友だちと仲良くしたいという気持ちはあるけれど友人関係をうまく築けない。
- ・友だちのそばにいるが、一人で遊んでいる。

言葉の発達の遅れ

- ・含みのあることばの本当の意味がわからず、表面的にことば通りに受け止めてしまう。

興味や関心が狭く特定のものにこだわること

- ・特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない。
- ・自分なりの独特な日課や手順があり変更や変化を嫌がる。 など



ワンポイント

環境を調整し、情緒の安定を図ろう。

- 見通しが持てるように
 - ・予定や手順は具体的に
 - ・変更がある場合は予告を
- ルールや指示は明確に
- 肯定的に接して
- 視覚的手がかりの活用を
- 感覚過敏への配慮を
 - ・音や身体接触など